

サマーワの撤収状況が逐次にテレビで放映されている。撤収支援隊も今夕にはクーウェートに到着し、撤収作戦が本格化する。

然し、これ程に情報を出して良いのだろうか。純軍事的に言えば、確かに敵地からの後退作戦ではないとは言え、危険がない訳ではない。報道の自由、国民の知る権利とは隊員を危地に陥れてでも守るべき絶対的な価値なのか、少々疑問を感じるのは小生のみだろうか。

それにしても、軽装甲車が走行中に横転して隊員が重軽傷を負ったという。確かに、危険を回避するために、相当な速度で走行しているのは理解できるが、窪地にハンドルを取られて横転など恥ずかしい限りである。練度を疑われても止むを得ない。



さて、自民党の総裁選に関する報道が激化してきた。靖国神社参拝を争点にするとかしないとか喧しいことである。支那大陸においては、日本人引き上げ記念式典なるものが実施されたようだが、硬軟取り混ぜての中国の幻術に惑わされる日本人が多くないことを祈る。

靖国が仮に中国の言うような方向で決着ついたとしても、次には別の問題を持ち出して日本を貶めるのは明らかである。

ここで日本としては国家百年の大計をしっかりと見据えて禪を締めて掛からねばならない。中国の少なくとも中間或いは当面の戦略目標が日本をアジアの盟主たる地位から蹴落とすことにあるのは明らかである。中国はアジアにおいて覇権を確立するのが当面の目標である。そのためにライバルであり、しかも先行する日本を引き摺り降ろさねばならない。

そのための手段としての靖国神社参拝問題であり、荒唐無稽な従軍慰安婦問題であり、南京大虐殺などであり、それらをひっくりめした歴史教科書問題なのだ。そして東シナ海での海底油田の開発であり、沿岸型海軍から遠洋（外洋）型海軍への脱皮、宇宙開発であり、北京五輪や万博なのだ。

中国の近年の動きを見れば中国に係る大戦略を着実に実行しつつあるのは明白である。日本人は見たくないものは見えない特性があるようだ。

日本がアジアや世界で名誉ある地位を占め、引き続き発展しようとするならば、このようなアジア情勢の中で如何に対応すべきかを検討する必要がある。二流国から三流国になるのを厭わず、中国の属国的な立場で唯々諾々と存在出来れば以って良しとするというのであれば、無為無策、流れに身を任せて現在を楽しめば良からう。

然しながら、日本人としてのプライドが少しでも残っているならば、少なくともその様な道をとるべきではないし、採ろうとしても国民感情が許さないだろう。

考えてみれば、自ら一国で中国に対抗していくのは至難の業である。多分能力的にも耐えられないだろう。

然らば、どうするか。日本は海洋国家である。日本が発展するためには、他の海洋国家と結ぶべきである。日本が大陸国家と同盟し、大陸進出したときに戦いに負け、海洋国家英国と同盟した時に日本が発展してきた歴史的事実を持ち出すまでもなく、海洋からの利

益を享受する方向での同盟が重要だ。戦後の発展は日本が米国と同盟し、海洋国家自由主義国家としての道を歩いて来たからに他ならない。即ち、言うまでもなく、アメリカとの同盟なくして日本の発展はないのである。

然らば、その日米同盟は磐石だろうか。確かに米国の期待を担ってのイラクへの自衛隊派遣など、日米関係は首相と大統領の個人的関係もあって、かつてないほど緊密であると言われている。沖縄の海兵隊移転等を含む米軍のトランスフォーメーションでも最終的には日米は大局に立って合意した。経済問題も色々とありながらも良好な共存関係にあって日米同盟破滅の爆弾とはなりえない。

日本人の意識も、矢張り何だかんだと言っても米国（人）が好きなのは明らかである。米国も日本に比較的好意を抱いているようだ。片思いではないだろうと思いたいのだが、・・・。

然しながらこの良好な関係も維持発展させる努力をしなければ瓦解する可能性無きにしもあらずである。彼の国は両国の間に隙あらば楔を打ち込まんと虎視眈々と狙っている。一方、米国には伝統的に中国に対する思い入れがある。それは悔しいけれども、前の大戦の時にも示された。米国経済界は特に中国の巨大市場に涎を垂らしている。垂涎の的なのである。

政治的に台湾問題があり、また太平洋の覇権を奪われたくないが故に価値観を共有する日本と結んでいるのである。日本にとっての米国は、必要不可欠な絶対的なパートナーであるが、米国にとって日本は必ずしも不可欠とは言えない、絶対必要な価値を有しているとは言えないのである。この冷徹な事実を見つめて米国と如何に付き合うべきかを考えるべきなのだ。

では如何に付き合うべきなのだろうか。上述の状況を前提として考えた場合に、米国の世界戦略に日本はどう対応すべきなのか。米国が日本を助けてくれるのは当たり前であり、日米同盟が片務的であることに長いこと誰しも疑問を抱いてこなかったけれども、それを見直すことが必要となるのかも知れない。それ位のインパクトのある決心を必要とするのかも知れぬ。

日米の戦略の緊密な摺り合わせが行われなければならない。